

市政報告

17 vol.

京都市議員



神谷修平

瓦版



はいっ！

おらい、
かみ
たに
君！

財政

京都市の財政は 本当に大丈夫なのか!?



2021年8月、門川大作市長が「10年以内に京都市の財政は破綻しかねません」と発言し、全国ニュースで報じられました。しかし、先日2023年2月の記者会見では市長は一転して「京都市は破綻しません！」と発言。その理由は、市民しんぶんにも記載された「22年ぶりの収支均衡」の達成です。

京都市は22年の長きに渡り「収入より支出が多い」という異常な予算編成を続け、その不足分を特別の財源対策と呼ばれるもので補い続けてきました。特別の財源対策とは、借入れをしたり、借金返済用に積み立ててきた貯金を取り崩すなど、言葉の通り特別な対策を講じることで予算不足を回避することです。その結果、いよいよ特別の財源対策に限界が生じはじめ、冒頭の財政破綻懸念の話になったわけです。しかし、単年度の収支がとんとんになったという話で、これまでのツケが解消されたわけではありません。

そのツケとは…

市の借金が1兆5000億円以上

貯金残高が実質政令市ワースト1位

特別の財源対策として使い込まれた公債償還基金(借金返済用の貯金)は未だ500億円が不足したまま

財政破綻度と呼ばれる将来負担比率は政令市ワースト1位

実質公債費率政令市ワースト1位

結果、京都市は財政危機状態を脱却出来たとは全く言えません!

また、今年の収支均衡が図れた理由は30億円以上の市民への負担増と税収および国からの交付税増というラッキー要素によるものが大きく、どれが欠けても収支均衡は実現しませんでした。こうした要素から考えると、次年度以降も収支均衡を図るのは非常に難しいと感じます。少なくともコロナ対策費として大幅に増えた地方交付税は次年度以降減額されることは確定的で、この間、コロナ対策費として支給された交付税を一般的な事業に流用することで予算を組んできた為、次年度の予算編成が苦しくなるのは間違いありません。

また、物価高騰による支出増、金利上昇に伴う利払いの増、社会福祉費の増、緊急的に支払いを止めていた水道局等へ支払いの再開、市有地売却の終了、税収減のリスクなど課題が山積みです。再び収支不均衡に陥るリスクは否定できず、かなり厳しい財政難状態は続きます。市長の大丈夫発言とは裏腹に京都市の財政再建の道は長くまだまだ険しい状況です。

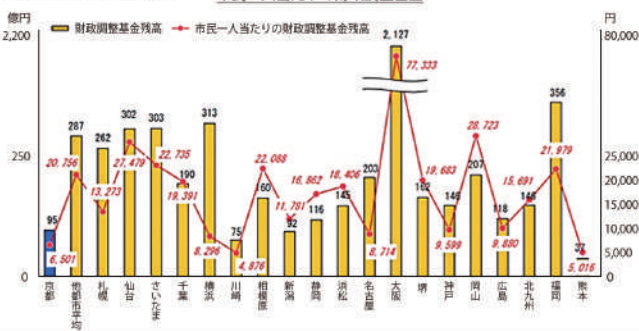
だからこそ!

- まずは議員が率先して身を切る改革
京都市議員の定数削減及び議員報酬の3割カット
- 真の行財政改革で財政健全化を目指す!
(役所内部からの徹底した改革)

それで得た財源で住民サービスの向上を目指すべきです!

財政調整基金残高

市民一人当たりの財政調整基金



京都市の財政調整基金残高は95億円となっており、指定都市では4番目に低い状況となっています。また、市民一人当たり財政調整基金残高は、指定都市では3番目に低い状況となっています。※ただし、地方交付税の減額清算対応分75億円を含むため、実質的な残高は20億円で指定都市で最も低い状況です。

防災

京都市の防災対策は大丈夫なのか!?



2023年1月、政府の地震調査委員会は南海トラフで今後20年以内にマグニチュード8~9クラスの地震が発生する確率を60%程度に引き上げました。地震調査委員会は、「いつ地震が起きても不思議ではない状況なので、備えを進めてほしい」という見解を示されています。

中間報告では... 京都市では約20年ぶりに地震被害想定の見直しが進められ、中間報告が発表されました。

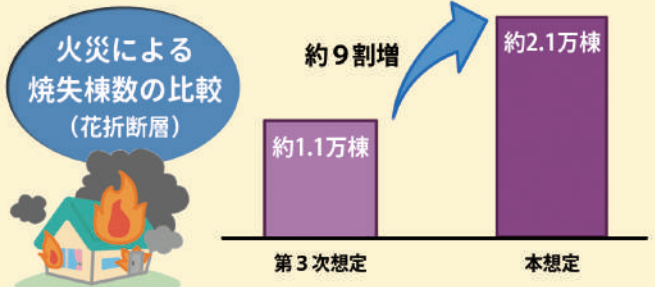
地震による建物被害は耐震化が進み全壊・半壊ともに約4割減少
死者数は約2割減少し、負傷者数も前回の被害想定と比べ大きく減少

しかし!! これは本市で取り組まれてきた防災・減災対策の成果です。

地震によって起こる火災で焼失する建物の被害想定は、前回は11,000棟でしたが今回の最新の想定では21,000棟と**ほぼ2倍近くの増加となっています!!** 大幅な増加の要因は、地震火災に関する最新の知見が踏まえられたことや、電気機器・配線からの出火が加えられたことによります。

| 想定項目 | | 前回想定 | 今回想定 | 備考 |
|----------------|----------|------------|---------|-------------------------------------|
| 建物被害 | 全壊 | 千棟 * 159 | 100 | 今回:液状化、急傾斜地崩壊による被害を反映 |
| | 半壊 | 千棟 * 190 | 111 | |
| | 焼失(冬18時) | 千棟 * 11 | 21 | |
| 人的被害 | 死者 | 千人 3.3~5.4 | 2.6~4.1 | 今回:屋内収容物の転倒、急傾斜地崩壊、ブロック塀等倒壊による被害を反映 |
| | 負傷者 | 千人 112~163 | 26~53 | |
| | 重傷者 | 千人 28~41 | 5.8~8.9 | |
| 避難者(発災直後、冬18時) | 千人 | 356 | 206 | 〔 〕は、前回想定を基に、本市で設定している数値 |
| | 避難所内 | 千人 * 296 | 165 | |
| | 避難所外 | 千人 | 60 | |

注 *の数値は、今回と比較可能となるよう調整



※火災による建物被害について、比較のため第3次京都市地震被害想定調査における焼失面積より焼失棟数を算定している。

防災士の試験に合格しました!



近年は災害が頻発・激化しており防災力の強化が非常に重要です。京都市の防災力強化に向けて、今後も頑張っ参ります!!



地震による最大の死者数は4,100人と想定
そのうち火災による死者数は最大1,700人と想定
これは死者数の約4割!!

京都市には、木造密集市街地が広く分布しており、災害時には延焼が拡大するおそれがあるなど防災面には大きな課題がある。

現状では、地震火災が起こった場合、密集市街地での高齢の方や、障害のある方、いわゆる要配慮者の方々の逃げ遅れが大変懸念される。

しかし、木造密集市街地は京都の魅力の一つであり、他都市と比較した場合、密集市街地における建物や路地などの防災面を直ちに強化しにくい側面がある。

今後は、建造物などの防災面の強化を推進しつつも、直ちにできる対策として、地震火災による被害の増加や危険性などの情報の周知徹底に努め、さらに地震火災を想定した特に要配慮者の方対象の避難訓練の実施や、個別避難計画の早期の作成などソフト面の強化を充実させていくべきと考えます。京都市に対し、対策強化を求めました!

『かみたに瓦版』の由来

神谷家は大宮五条で『神治屋』という瓦屋を営んでおりました。それにちなんで、タイトルを「かみたに『瓦』版」と命名致しました。

神谷修平プロフィール

1986年11月19日生まれ 関西学院大学卒業

- 文化財保存修復師として約10年間 国宝・重要文化財の絵画の修理に携わる。
- バスケットボール部に中学から高校まで、6年間所属
- 家族は妻と子供2人です。

